

峯 俊 智 穂

(経済学部)

「観光×教育」地域づくり

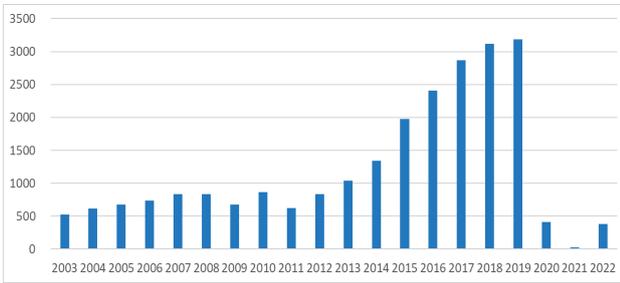
定住人口1人当たりの年間消費額 (2019年)
約**130万円**

(出典) 総務省統計局 (2019) 「家政調査」

定住人口が1人減少 = 130万円の年間消費が減る

→ 訪日外国人旅行者1人1回あたりの消費額 : 8人分

図. 訪日外国人旅行者数の推移 (2003年~2022年) [単位: 万人]



(出典) 日本政府観光局データをもとに峯俊作成

● 地方創生の時代

人口減少が進むことにより、地域経済の縮小が問題となっています。また、地方では高校卒業者の都市部への流出が喫緊の課題となっています。

● 地域経済拡大の切り札としての観光振興

日本各地では、観光振興による、特にインバウンド需要の取込みによる地域経済の活性化が進められています。

● 観光地における観光教育の実践

地方の観光地(地域)に所在する高校では、地域の次世代を支える人材育成に関わる教育が展開されています。

【研究内容】

「地域住民の Well-being と 旅行者の Well-being」
観光振興には両者を考えることが必要であると捉え、現在は観光地に所在する県立高校を対象とした観光教育研究を展開しています。



2022年9月、ゼミのシンガポール研修旅行にて

所属

経済学部

研究テーマ

- 観光振興による地域経済活性化
- 地域連携とPBLによる観光教育
- 世界遺産周辺地域における地域資源の保全と継承

キーワード

観光経済論、観光教育論、世界遺産保護政策

県立高校の観光教育と基礎自治体

観光教育とは「観光ビジネス教育」に限りません。

私は「観光の基礎教育としての地域学習」として広義に捉えています。この理由は、地域を支える次世代の教育には、地域特性や地域資源について「知る」ことが重要であると考えためです。この学習内容は、観光の基礎教育として位置付けられます。

現在の研究は、歴史的観光地に所在する県立高校における観光教育への基礎自治体(市町村)の関わり方に着目しています。また、実践に関わる取組みとして、県立高校の先生と協働での「総合的な探究の時間(探究)」プログラム構築や特別授業も行っています。



公立高校「探究」での特別授業